

甲府市 1 人 1 台端末利活用計画

1. 1 人 1 台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

1 人 1 台端末を活用した学びの姿として、児童生徒一人ひとりの能力や特性に応じた個別最適化された学びと、協働的な学びの一体的な充実を目指す。端末を活用することで、子どもたちは教室内外を問わず、主体的・対話的で深い学びを体験することができる考える。例えば、クラウド型学習支援ツールを通じて、他者と意見を交換しながら課題を解決する協働的な学びや、学習履歴や AI 型ドリルを活用した個別最適な学びが可能となる。また、時間や場所にとらわれない学びの環境を提供することで、休校時や不登校児童生徒への対応も強化され、誰 1 人取り残すことのない学びの環境を提供することができる。

2. GIGA スクール構想第 1 期の総括

GIGA スクール構想の第 1 期においては、1 人 1 台端末と高速ネットワーク環境の整備が完了し、ICT を基盤とした教育の推進が実現した。この期間には、クラウド型学習支援ツールの導入や、情報モラル教育の強化により、児童生徒の ICT 活用能力の向上が見られた。また、教員への研修を通じて、授業に ICT を組み込むスキルの向上が進んだ。一方で、端末管理や活用の不均一性という課題も浮き彫りになった。

3. 今後の 1 人 1 台端末の利活用方策

(1) 1 人 1 台端末の積極的活用を進めるために

今後、端末の積極的な活用を促進するため、毎年、教職員向けの ICT スキル研修を実施していく。また、全教員が 1 人 1 台端末によって授業をより効果的に実施できるように、指導案や活用事例の共有を進める。さらに、クラウドサービスの強みである、ビッグデータを利用した教育データ利活用を推進していくために、端末を通じた教育データの収集・分析を行い、指導改善のためのフィードバックを積極的に行っていく。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために

個別最適な学びの実現のために、AI 型ドリルや学習履歴に基づく適応型教材を活用し、児童生徒一人ひとりの学習進度に合わせた指導を実施していく。同時に、クラウドサービスを活用した協働的な学びの場を提供し、児童生徒が互いに学び合いながら知識を深める機会を増やす。また、これまでも実施してきた「甲府スタイルの授業」をより ICT 機器によって充実させると共に、ICT の活用によって自己評価や自己調整の能力を養成していく。

(3) すべての児童生徒の学びの保障のために

1 人 1 台端末を通じて、不登校や特別な支援を必要とする児童生徒にも、等しく学びの機会を保障していく。特に、不登校児童生徒や、教室に向かうことができない児童生徒には、現在、GoogleMeet を活用して授業を行っているが、さらに手厚く遠隔授業の実施を行い、場所を選ばずに学べる支援を行っていく。また、

合理的配慮の観点から、音声文字変換やデジタル教科書などを活用し、児童生徒の特性に応じた学びの場を保障・提供していく。